

生活協同組合コープかがわ

～ 食育の大切さ！ 教育ファームを継続 ～

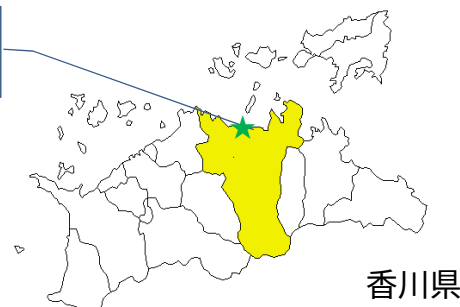
高松市は、香川県の北東に位置し、北は多島美を誇る海の国立公園、瀬戸内海に面し、南は讃岐山脈を望む、風光明媚で温暖な県庁所在都市です。

2009年から生活協同組合コープかがわとして始めた、農作業から食べるまでを体験できる教育ファームは、今年で4年目を迎え、地元の生産者の指導の下で一連の農作業や収穫した農林水産物を使った調理などを体験します。また、自然の恩恵や食べ物を生産することの喜び、苦労を直接肌で感じることによって、食べ物を大切に「心」や地域の農林水産業への理解、地域の食文化への親しみの「心」を育んでもらう活動をしています。

取組主体

- 名称 生活協同組合コープかがわ
- 所在地 香川県高松市新北町14-27
- 代表者 理事長 木村 誠
- 連絡先 生活協同組合コープかがわ
- 電話・FAX 087-835-6800
- HPアドレス <http://www.kagawa.coop.or.jp/>

生活協同組合
コープかがわ



活動の動機・目的

参加組合員が土に親しみを持ち、作物を作る喜びや苦労、自然のすばらしさを体験することで、一人でも多く野菜が好きになり、地産地消と食育の推進に繋がること。

活動の紹介

さぬき市長尾の生産者の田畑で、農作物の植え付けから収穫までの作業や、収穫した農作物を使った料理・試食・加工・販売等の体験活動をしています。

もち米の収穫の様子

(平成24年10月6日(土))



もち米の収穫作業

おむすびが
おいしーい！



父の手ほどき



あったよ！



フロッキーの収穫・餅つきの様子

(平成24年11月10日(土))

早く食べたーい



きねが
重いよ～

体験後の集合写真



生活協同組合コープかがわ

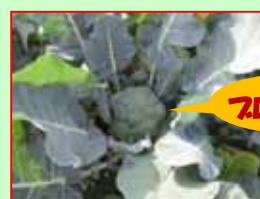
取組内容

★ 地域関係者との連携

- ・教育ファーム実践農場として、香川東部青果(株)社長から野菜を出荷されている農家を紹介してもらった。この農家は、初年度から教育ファームに協力的で積極的な取り組みを展開している。
- ・農場周辺に駐車場がないため、地域住民の協力のもと、参加者は農道等に駐車し体験活動に参加。
- ・天候の影響で体験ができない場合、当日の作業を農家に頼むことになるが非常に協力的である。

★ 体験活動の運営

- ・農家と東部青果(株)、コープかがわの3者が、栽培作物や活動計画を策定(年間5回位)。3者で作物の生育状況等を把握し、土・日の活動に向け詳細を決定・実践。
- ・体験活動は、子供が対象。作業面積で参加人数を制限(上限40名)、参加人数が多くても少なくても困る。今年度は、申込者が多く抽選とした。
- ・毎年11月開催のイベント「大川エリア コープふれあいの集いinみろく公園」に野菜を出荷することを目標に取り組む。
これまで、ブロッコリー・レタス・白菜・ほうれん草・じゃがいも等を栽培してきたが、虫害や天候等の影響でイベントに出荷できないこともしばしばあった。
今年は、もち米とブロッコリーに変更。活動日の天候も良く、ブロッコリーを出荷した。
- ・活動日の天候が体験に大きく左右する。特に中止の場合、作業を農家に頼むことが一番辛く、心苦しい。天候はどうにもならない。
- ・活動計画終了後、当社から農家に謝礼を支払う。



★ 参加費の設定

無料。毎年、当社が運営経費として予算化。農作物の販売利益はない。

★ 参加者の集め方

共同購入の利用者を対象にチラシを配付し、参加者を募集。

将来の夢(目標)

大川地区で実施している教育ファームが、県内の他のエリアでも実施されることを夢見て活動している。また、教育ファームの参加者が楽しんでくれて、もっと野菜を好きになり、地産地消と食育の推進に貢献できれば良い。

生活協同組合コープかがわ 無店舗事業部農産マーチャンダイザー:田井 大資



みんなの声

(参加者)

- ・カマで刈るのは難しそうだったけど、実際やったら楽しかった。(6歳女(さぬき市))
- ・おばあちゃんに勧められて参加した。みんなで稲刈りが出来て良かった。(11歳男(東かがわ市))
- ・農作業の経験が無く、今回は、田植え、稲刈り、餅つきと年間を通しての農業体験、ぜひ参加したかった。田植えから収穫まで管理をしていただいた方に感謝したい。また、機会があれば参加したい。(40代女性(高松市)、子4人)
- ・一緒に作業し、農家の苦労を知ることによって食べ物を大切にする気持ちを育てたい。(60代女性(東かがわ市)、孫2人)
- ・子どもたちに、食べ物が口に入るまでどれだけ手間がかかるか分かってほしい。(40代男性(高松市)妻、子4人)

(生産者)

- ・農業に関心(興味)を持ってきている人がいることと、子どもが来て楽しそうに作業をする姿が嬉しく、自分が元気になれる。これからも、農業を頑張ろうと思う源になる。来年も圃場を提供し活動をする。



(スタッフ)

- ・平成21年からの取り組みで田植え、稲刈りは初めて。子どもがカマを使うので、ケガのないようにと一番気を遣った。また、ブロッコリーの収穫で包丁を使ったが、参加者の協力があったから無事終了した。
- ・小さな子どもたちが、楽しそうに作業をする姿が嬉しい。